

京都工芸繊維大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）
自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

総合教育センター運営委員会 数理・データサイエンス・AI教育プログラムワーキンググループ

（責任者名） 寶珍 輝尚

（役職名） ワーキンググループ長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは令和4年度入学の1年次生から開始のプログラムのため、履修者は令和4年度入学の1年次生のみであるが、履修率は96%と非常に高い。今後、この履修率を維持することが望まれる。</p> <p>履修率は96%と非常に高率であるが、修了率は76%に留まっている。これは、プログラム科目を選択必修科目としているデザイン・建築学課程の修了率が55%となっているためであり、今後、より一層の修了率向上に取り組む必要がある。</p>
学修成果	<p>本プログラムは主に1年次で履修する。本プログラムの学修成果は、各課程での専門基礎教育、専門教育において活用することが期待される。特に、電子システム工学課程、情報工学課程、ならびに、機械工学課程では、3年次にAI・データサイエンス関連の科目を配置しており、これらの科目の円滑な受講に貢献できる。他の課程においても、各種データ分析において、本プログラムの学修成果を活用できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>受講生に対して実施している「授業評価アンケート」により、各授業に対する積極性、授業目標に対する達成度、及び、授業の内容や関連する分野への関心度の向上を確認している。いずれの項目も概ね高い結果となっている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>受講生に対して実施している「授業評価アンケート」において、後輩学生や他の学生への推奨については確認できていない。今後、プログラム修了生に対して、プログラムの学修が役に立っているか、後輩等他の学生に推薦できるか等を問うアンケートやヒヤリング等を行い、後輩学生や他の学生への推奨について確認してゆく必要がある。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>全学の共通科目であり履修率の高い「工芸科学基礎」に数理・データサイエンス・AI関連の授業を組み込むことにより、全学的な履修、ならびに、高い履修率を計画した。96%という非常に高い履修率となり、計画を達成することができている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和4年度入学の1年次生から開始のプログラムであり、本プログラム修了者はまだ大学を卒業していないため、現時点での本項目の評価は行えない。当該学生の卒業後に評価を行う予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本プログラムは令和4年度入学の1年次生から開始のプログラムである。今後、令和4年度実施の教育プログラムの内容・手法等への産業界からのご意見を求めてゆく必要がある。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>各課程での「データを読む、説明する、扱う」という数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関する授業において、各課程の専門分野で取り扱うデータを使用して授業を行うことで、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させている。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>受講生に対して実施している「授業評価アンケート」からの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。</p>